

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ライム			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		～	2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		～	2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○訪問先施設評価実施期間	2025年 1月 10日		～	2025年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・「事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか(保護者Q17)」や、「質問に対して適時・適切に回答してくれていると思いますか(施設Q3)」ではすべて「はい」の評価を得ています。職員の誠実で丁寧な姿勢、安心感のある対応が、保護者・施設どちらともから高く評価されています。	・こどもの気持ちや関係者の声に寄り添いながら、丁寧な聞き取りと説明を心がけています。また、小学校教員免許や保育士資格を持ち、学校や園の現場経験のある職員が支援を行うことで、実情に即した対応が可能となり、保護者や施設に安心感を与える支援に繋がっています。支援場面での些細な変化にも配慮し、常に誠実な姿勢を心がけています。	・支援場面の振り返りや職員間での意見交換を通じて、共感的な関わり方の質をさらに高めています。今後も、保護者や施設の立場に立った柔軟で丁寧な対応を継続し、信頼される関係づくりを、より深めています。
2	・「事業の目的が適切に説明されていると思いますか(保護者Q3)」 「支援内容の説明がなされたか(Q13)」や、施設側からの「訪問支援の内容について話し合いが行われているか(施設Q21)」などの設問で、いずれも高評価を得ています。目的や支援内容をわかりやすく伝え、関係者と丁寧に情報共有を行う姿勢が強みとして挙げられます。	・訪問支援の際には、支援の目的や実施内容を事前にわかりやすく伝えることを心がけています。また、施設や保護者と定期的に情報を共有し、支援方針をすり合わせながら、支援の一貫性と理解の促進に努めています。	・訪問支援のねらいや目的について、初回の説明に限らず継続的に共有する機会を設けていきます。今後は支援の成果や支援員の視点も丁寧にフィードバックし、保護者や施設との共通理解をより深められるよう工夫してまいります。
3	・「事業所の支援に満足していますか(保護者Q28)」や、「課題が解消・軽減されたか(施設Q4)」 「支援に満足しているか(施設Q5)」において、いずれも肯定的な回答と具体的な好意的意見が寄せられました。支援の結果として、こども自身の安心感や成長、前向きな取り組みが実感されている点、大きな強みです。	・訪問支援においては、こどもの特性や課題をふまえた関わりを行い、本人が無理なく自信を持って取り組む事ができる環境づくりを意識しています。また、支援の場面では本人だけでなく学校や園における周囲のこどもたちへの配慮も心がけ、安心して過ごすことができる雰囲気づくりを大切にしています。	・引き続き、こども一人ひとりの小さな変化や挑戦に寄り添い、安心して学校や園での生活に取り組むことができるような環境と関わりを継続していきます。イベントや行事など、特別な場面でも本人の力が発揮できるよう、事前の準備や関係者との協力体制をより丁寧に整えてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・「訪問支援員からの助言や説明は、具体的にわかりやすいものですか(施設Q1)」の設問において、「どちらともいえない」の回答が見られました。また、「支援の目的やねらいを共有したい」との自由記述もあり、支援の方向性について共通認識が十分に形成されていないケースがあることが示唆されました。	・訪問支援の内容がこども一人ひとりに応じて異なるため、支援の目的やねらいが共有されにくい状況が生じることがあります。また、支援時間や機会が限られている中で、丁寧な事前説明や事後の共有を十分に行うことができなかった場面もあったと考えられます。	・支援の前後において、目的やねらい、支援の方針について丁寧に説明し、訪問先との共通理解を図るよう努めてまいります。また、支援後には、児童の変化や支援員の気づきなどを振り返る時間を設け、先生方と情報を共有する機会を大切にしていきます。
2	・「訪問支援員の支援に対する知識・技術に満足していますか(施設Q2)」では、「どちらともいえない」が2件あり、自由記述でも「情報共有する時間を設けていないため判断が難しい」「場の設定を望む」といった意見が見られました。支援内容や方法について、訪問先と十分に共有できていない場面があったことが示唆されます。	・訪問支援は限られた時間内で行われるため、支援後の振り返りや詳細な説明の機会が持ちにくいことがあります。また、学校や園の状況によっては、支援担当者や直接話す時間が確保しづらい場合もあり、情報共有のタイミングが限られていたことが課題と考えています。	・支援後におけるフィードバックの工夫を進め、短時間でも支援の概要や意図が共有できるよう、要点を整理した伝達や記録の活用を検討します。また、訪問先施設との連絡手段や時間の確保についても調整を図り、情報共有の質と頻度の向上に努めていきます。
3	・「家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や研修会、情報提供の機会が行われていますか(保護者Q14)」の設問において、回答が「はい」「どちらともいえない」「いいえ」に分かれました。一部の保護者にとっては、事業所からの支援や情報提供が十分に届いていないと感じられている可能性があります。	・訪問支援の中心が学校や園の現場に置かれているため、家庭への支援機会や関わりが相対的に少なくなりやすい体制にあります。また、家庭ごと支援へのニーズや受け取り方が異なるため、画一的な支援提供が難しい点も課題と捉えています。とはいえ、訪問支援を利用してある全家庭は放課後等デイサービスもしくは児童発達支援にて通所されておりますので、通所サービスにて保管してまいります。	・日々の支援ややりとりの中で、保護者からの相談や質問には丁寧に応じ、必要に応じて適切な情報提供ができるよう努めてまいります。加えて、家庭側のニーズを丁寧に把握し、個別の状況に応じた支援の在り方を引き続き模索してまいります。